

# 小路めぐりマップ 津島市探訪

## ③ 尾張津島天王祭と津島神社 ゆかりの地めぐりコース

はじめての人も、津島通な人も、天王祭と津島神社をより深く感じることができるコースです。

名鉄津島駅スタート 総距離約 3.7km (約 2 時間 30 分)  
 ⇒730m②屋根神様⇒360m④車河戸⇒430m⑥御旅所⇒370m⑧菅原社  
 ⇒250m⑩宝寿院⇒170m⑫大イチョウ⇒530m⑭ポケットパーク⇒360m⑯常楽寺  
 ⇒510m 名鉄津島駅ゴール  
 (注) マップの赤線上での距離、所要時間。所要時間は分速 60m 及び滞在時間 5 分で算定。

⑪あかだ・くつわのお店  
日本一固いと  
言われるお菓子



⑫馬場町の大イチョウ  
旧御旅所に立つご神木



⑬堤下神社  
津島神社の元遷拝所



⑭ポケットパーク  
ユネスコ無形文化遺産に  
登録された天王祭を紹介



⑯常楽寺  
津島神社神主氷室家の  
菩提寺



⑰観音寺  
織田家三代ゆかりの  
元神宮寺社僧坊



出入口：東

①興禅寺  
津島神社筆頭社家の菩提寺



⑩宝寿院  
津島天王社神宮寺の  
元社僧坊



⑨津島神社  
年間百万人が参拝する神社



⑧菅原社  
津島神社の摂末社の一つ



⑦堀田家住宅  
国・重要文化財の町家



津島市観光  
交流センター  
津島市の観光情報は  
こちら



⑥御旅所(天王川公園)  
天王祭の神輿が来る場所



⑤神葭島(天王川公園)  
天王川公園丸池の孤島



④車河戸(天王川公園)  
天王祭の舞台となる入り江



②三養荘の屋根神様  
現存する屋根神様の一つ



③瑞泉寺の稚児門  
天王祭の際使用される門



- 凡例
- ①～⑰：おすすめスポット
  - ：おすすめルート
  - ：本町筋(旧街道)
  - 🚉：駅
  - 🏯：寺院
  - 🏪：神社
  - 🚻：トイレ
  - ♿：多目的トイレ
  - 🏠：津島ゲストハウス
  - 🏢：高層建築物(目印)
  - 📍：名所

解説は裏面にあります

100m 200m



## コース概要

津島は津島神社の門前町であり、津島神社の祭である尾張津島天王祭(おわりつしまてんのうまつり)が行われるまちです。尾張津島天王祭は、平成28年にユネスコ無形文化遺産に「尾張津島天王祭の車楽舟行事(おわりつしまてんのうまつりのだんじりぶねぎょうじ)」として登録されています。津島神社は1400年以上の歴史を持ち、津島は門前町として発展してきました。そのため津島市内には、津島神社の摂末社だけではなく、町並みや寺院にも津島神社・天王祭に関連する場所があります。また、尾張津島天王祭の舞台となる場所を歩いて、普段のまちの様子と祭の時期の全く異なる様子を見比べてみてはいかがでしょうか。

### ①興禅寺(こうぜんじ)

津島神社筆頭社家堀田右馬太夫家の菩提寺。文人堀田之邑の墓(市指定文化財)や木造牛頭天王倚像(市指定文化財)を所蔵します。

### ②三養荘の屋根神様

#### (さんようそうのやねがみさま)

屋根神様は、この地方独特の文化であり、町家の屋根の上に祀られる小さな祠です。この屋根神様は近所にあったものを遷した屋根の上にある屋根神様です。伊勢、秋葉、津島神社の神札等を祀っています。

### ③瑞泉寺の稚児門(ずいせんじのちごもん)

尾張津島天王祭の起源は諸説あり、その一つとして語られる良王君の菩提寺。かつて周辺は水辺であり稚児は舟に乗って車河戸まで行き、祭の舟に乗り込んだとされます。稚児の出入りの時に使われるのが稚児門で、現在でも本町筋には稚児門を備えた町家があります。

【稚児打廻し】

開催日：7月第四土曜日の前日金曜日夜

場 所：津島神社ほか

### ④車河戸(天王川公園)(くるまこうど)

天王川公園東部にある入り江で、祭河戸とも。天王祭の巻藁船・車楽舟の舟支度や、稚児打廻しの行列が出発する場所、御旅所より津島神社の祭の出迎えの赤舟が来る場所など、天王祭の舞台裏となる場所です。普段は、天王祭の舟となる屋形と鉄舟が置かれています。

### ⑤神葎島(天王川公園)(みよしじま)

天王祭は車楽舟行事が有名ですが、合わせて神葎(みよし)に関する神事が行われます。神の依代である神葎は朝祭後に天王川に放流され、神葎着岸祭・神葎祭の75日後に、天王川公園の丸池にある神葎島に奉納されます。

### ⑥御旅所(天王川公園)(おたびしょ)

神様が祭をご覧になる場所を御旅所と呼びます。普段から鳥居と玉垣がありますが、天王祭が近づくと竹垣が設けられ、宵祭の日には、津島神社より神輿(みこし)が渡られ、朝祭が終わると津島神社へと還られます。

### ⑦堀田家住宅(ほったけじゅうたく)

国の重要文化財に指定されている江戸時代の町家建築。津島神社の神官堀田之定の子之理を初代とする堀田理右衛門家の邸宅。この周辺は神社の神職や御師と呼ばれた人々が住んだ社家町だった。

開 館 日：土・日曜日、祝日

開館時間：午前10時～午後3時

料 金：一般300円(※200円)、小・中学生100円(50円)  
※()内は15名以上の団体料金割引

その他：開館日以外の火から金曜日(祝日を除く)に  
観覧希望の場合は津島市社会教育課  
(0567-55-9421)まで。

### ⑧菅原社(すがわらしゃ)

津島神社には多くの摂末社があります。三ツ石や与謝野晶子の歌碑がある菅原社、弥五郎殿社があります。また、祭神建速須佐之男命の荒御魂を祀る「荒御魂社」、和御魂を祀る「和魂社」、奇御霊を祀る「柏樹社」、幸御霊を祀る「居森社」、和御霊を祀る「疹社」の5社は、本殿と合わせて6社で祭神を祀るという珍しいものです。

### ⑨津島神社(つしまじんじや)

津島神社は、緑豊かな境内に鮮やかな朱色の建築物が左右対称に並ぶ尾張造と呼ばれる建築様式で建てられた津島を代表する神社です。疫病厄災除けのご利益で知られ、全国天王総本社として全国に3,000の分社があると言われていています。尾張津島天王祭は、津島神社の祭礼であり、様々な神事・祭事が行われます。五車の稚児の行列が神社に参拝する稚児打廻し、津島神社より御旅所へ向かう神輿渡御、朝祭の鉾持が行う布鉾奉納、神輿が津島神社に戻る神輿還御は見物可能です。

### ⑩宝寿院(ほうじゅいん)

津島神社が津島天王社と呼ばれていた頃の神宮寺の別当を担っていた社僧坊の一つ。明治の神仏分離令も耐え、津島神社に現存する唯一の寺院となっています。

### ⑪あかだ・くつわのお店

津島神社の門前には、「あかだ」と「くつわ」というお菓子のお店が並びます。あかだ・くつわは米粉を油で揚げたお菓子で、日本一固いお菓子と言われています。あかだは津島神社の神饌、または弘法大師の供物を起源とするとされています。

#### あかだ屋清七

休業日：第二、第四水曜日 営業時間：午前9時～午後6時

#### 総本家角政

休業日：不定休 営業時間：午前8時～午後7時30分

#### 松屋儀左衛門

休業日：不定休 営業時間：午前10時～午後5時

### ⑫馬場町の大イチョウ

#### (ばばちょうのおおいちょう)

この辺りは天王川の西堤にあたり、川に面していました。大イチョウは津島神社のご神木であり、江戸中期まではここが御旅所でした。

### ⑬堤下神社(とうげじんじや)

津島に、天王川という川が流れていた頃、川が増水して渡れないときなどに津島神社の遥拝所(遠くから寺社を拝む場所)であった神社。境内には古井戸があり手水としても使われました。

### ⑭ポケットパーク

ユネスコ無形文化遺産にも登録された、尾張津島天王祭を紹介する小さな公園。幕末期の天王祭の行事を記した絵巻を陶板にして紹介しています。

### ⑮本町筋(ほんまちすじ)

旧天王川の堤防筋にあたる道で、この道沿いに津島のまちは形成されていました。古い町並みが並ぶ旧街道であり、尾張津島天王祭は本町筋沿いのまちである津島五ヶ村の有力な町方衆によって担われました。

## 用語集

### 尾張津島天王祭(天王祭)

開催日：7月第四土曜日夜(宵祭)と翌日曜日朝(朝祭)

場 所：天王川公園及び津島神社

津島の夏祭。数か月間かけて行われる神事・祭事の中でも宵祭と朝祭に行われる車楽舟行事は、ユネスコ無形文化遺産に登録された津島を代表する祭です。無数の提灯をともした巻藁船が出る宵祭と、能人形を乗せた車楽舟の朝祭の2日間のほか、数か月に及ぶ神事・祭事が執り行われます。

### 巻藁船／車楽舟(まきわらぶね／だんじりぶね)

尾張津島天王祭の際に登場する舟。祭が近づくと、車河戸で舟2艘をとめ1艘に組み立て、その上に屋形を乗せます。巻藁舟は、宵祭に5艘出ます。舟の屋形の上に乗せる「坊主」に400近い提灯を差します。提灯をさす「坊主」と呼ばれる部分に巻藁が詰め込まれており、そのことから巻藁船と呼ぶと考えられます。車楽舟は、朝祭に6艘出ます。朝祭のみ、市江(現愛西市)より市江車が参加します。津島五車は、宵祭が終わると夜を徹して朝祭へ飾替えを行います。朝祭の車楽舟は屋台の上に能人形を乗せており、先頭を行く市江車には鉾持ちの青年たちが乗ります。

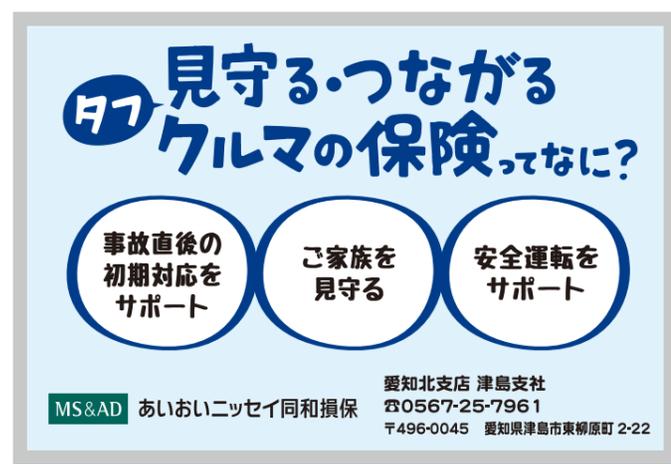
## 小路めぐりマップについて

・平成28年度にワークショップで作成した20種類の小路めぐりマップを4種類に再編しました。

・小路めぐりマップは、津島市公式ホームページよりダウンロードしてお楽しみいただけます。

【URL】<http://www.city.tsushima.lg.jp/index.html>

【注意事項】掲載スポットの営業・拝観情報はマップ作成後に変更されている場合がありますのでご了承ください。



見守る・つながる  
クルマの保険、ってなに?

事故直後の  
初期対応を  
サポート

ご家族を  
見守る

安全運転を  
サポート

MS&AD あいおいニッセイ同和損保

愛知北支店 津島支社  
☎0567-25-7961  
〒496-0045 愛知県津島市東柳原町 2-22

### ⑯常楽寺(じょうらくじ)

津島神社神主家であった氷室家の菩提寺。曹洞宗の寺院です。境内には、江戸時代神主で歌人の氷室長翁の墓があり、津島神社と東海三県で最も密集する津島の寺院の関係性を伝えます。

### ⑰観音寺(かんのんじ)

津島神社が津島天王社と呼ばれていた神仏習合の時代に、津島天王社の神宮寺の社僧坊であった寺院です。現在では、真言宗智山派の寺院として弘法大師の秘法護摩祈祷(厄除等)をご本尊不動明王の御前にて28日(本尊縁日)午前10時より勤めています。

### 津島五ヶ村(つしまごかそん)

室町時代頃より津島を形成していた五つのまちのこと。天王祭の車楽舟行事は五ヶ村の有力な町衆(町方)によって行われました。五ヶ村は天王川の自然堤防上(現本町筋)南北に広がり、米之座(こめのざ)・堤下(とうげ)・今市場(いまいちば)・筏場(いかだば)・下構(下村)(しもがまえ)の五つの名前は現在でも天王祭の五つの舟に受け継がれています。

### 神宮寺

明治以前の日本では、神仏習合の考えに従い、神社の境内にはお寺が建てられていました。これを神宮寺と呼び、神宮寺に奉仕する僧侶を社僧、神宮寺に奉仕する社僧の職名を別当、社僧が住まいとした僧房を社僧坊と呼びました。神社と寺院の神仏習合は、明治政府の神仏分離令で終焉を迎えました。

【QRコード】



SOMPO  
ホールディングス | 保険の先へ、挑む。 損保ジャパン日本興亜

保険の先へ、挑む。

損保ジャパン日本興亜はSOMPOホールディングスの一員です。

損害保険ジャパン日本興亜株式会社  
名古屋支店 名古屋西支店  
〒460-8551 愛知県名古屋市中区丸の内 3-22-21  
Tel:052-953-3085 <https://www.sjnk.co.jp/>